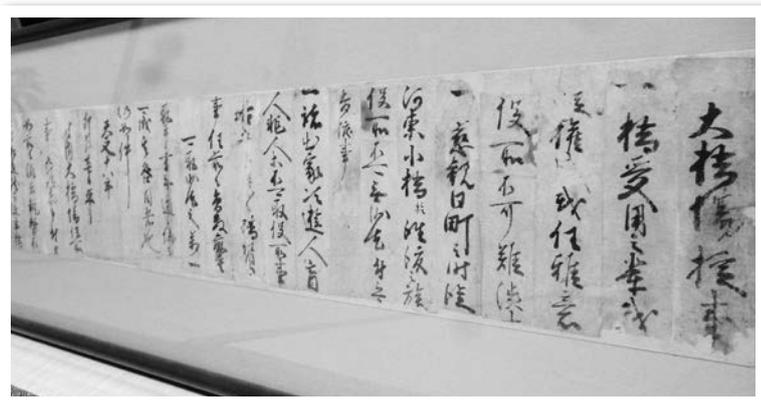


ぎかい



2017.1.17

小国町議会だより 第131号



上杉謙信の府内大橋場掟書
(指定文化財 古文書 第1号)



上杉景勝公御下賜の扇子
(指定文化財 工芸品 第3号)



上杉景勝公御下賜の采配
(指定文化財 工芸品 第3号)



迎春

表紙関連記事は14ページ

主な内容

- 「議会報告会」開催
- 一般質問5名登壇
- 行政視察報告

5対4で補正予算可決!

10月
臨時会
10月25日(火)

人工透析治療事業費減額3,385万円 透析患者送迎事業費追加507万円

10月臨時議会は、町立病院において人工透析治療実施を見送った事による病院事業会計への出資金の減額と、人工透析患者の通院に係る送迎支援に要する経費の追加を行い、合わせて2,878万円の減額補正を賛成5名反対4名で可決した。



提出者 伊藤重廣議員・米野貞雄議員・小関和好議員

動議の内容 人工透析予算減額については、減額の理由について検証すべきである。議案審査特別委員会の設置を求める。

採決結果 賛成少数で否決

一般会計補正予算

人工透析を見送った事による病院事業会計への出資金の減額及び人工透析患者の通院に係る送迎支援に要する経費の追加。

討論5名 賛成討論 遠藤和彦議員・小林嘉議員
反対討論 石山久美子議員・小関和好議員・米野貞雄議員

採決結果 賛成多数で原案通り可決

小国町病院事業会計補正予算

人工透析の見送りによる、人件費等や医療機器等の整備に要する経費の減額。

討論6名 賛成討論 間宮尚江議員・遠藤和彦議員・小林嘉議員
反対討論 石山久美子議員・小関和好議員・米野貞雄議員

採決結果 賛成多数で原案通り可決

人工透析患者送迎事業の詳細

人工透析の患者さんを家から各病院まで送迎する事業。

予算 507万8千円(H28年12月~H29年3月)

利用者……16名

送迎車……4台(リース)

運転手……(株)小国タクシーに委託

送迎補助員……9名直接雇用



人工透析送迎車両

12月定例会 12月6日(火)～12日(月)

人工透析治療請願7対2で趣旨採択! プレミアム付き商品券補正可決

12月定例会は、12月6日(火)より7日間の日程でおこなわれた。平成28年度補正予算7件、条例関係4件、町民体育館等の指定管理者の指定2件、副町長人事等合わせて17件の議案が審議され原案のとおり可決した。請願は、2件提出され採択と趣旨採択という結果となった。

一般質問は5名の議員が行い、諸問題を町長に質問した。

1億1,385万7千円の補正

主な事業	補正額
町営バス修繕経費	1,147千円
民間保育所の入所委託経費	6,337千円
プレミアム付き商品券発行事業支援	3,247千円
工業用水道利用確保助成	30,000千円
橋梁診断業務経費	3,400千円
除雪対策基金の積み増し	50,000千円
商工会女性部景観整備支援	300千円



プレミアム商品券

人事

副町長 山口 政幸 再任 (任期:平成29年1月1日から平成32年12月31日まで)

指定管理者の指定

小国町民総合体育館
小国町多目的屋内運動場
指定期間

特定非営利活動法人おぐにスポーツクラブ Yui
特定非営利活動法人おぐにスポーツクラブ Yui
平成29年4月1日～平成33年3月31日(4年間)

議会活性化の緒に就いたばかりでありますが、町民一人ひとりの声にいつそう耳を傾け、山積する課題に議会一丸となって全力で取り組み、町民の付託にしっかりと応えていく所存であります。

町民皆様のご多幸をご祈念申し上げます。

新年、明けましておめでとうございます。

皆様には、ご健勝にて輝かしい初春をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

さて、昨年は、当議会が目指す「情報の共有化による、町民に開かれたわかりやすい議会」の実現に向け、初めての試みであります「議会報告会」を町民皆様のご協力をいただき開催することができました。



高野 健人

小国町議会議長

年頭のご挨拶

請願審査結果

件名	請願者	紹介議員	賛成	反対	審査結果
小国町立病院で一日でも早く人工透析治療の開始を求める請願	小国町大字五味沢 斎藤 広実	石山久美子	8	1	趣旨採択*
「農業者戸別所得補償制度」の復活を求める請願	南陽市漆山 置賜農民連会長 小林 茂樹 小国町大字北 小国町農民連 本間 義信	伊藤 重廣	5	4	採択

継続審査結果

件名	請願者	紹介議員	賛成	反対	審査結果
社会福祉事業を運営する事業者の所有する軽車両の減免を求める請願書	小国町大字小国小坂町 特定非営利活動法人 まんまる 施設長 本間 義信	石山久美子	1	8	不採択
障がいのある方々が安全で安心して暮らしていける小国町の宣言と、議会決議を求める請願書	小国町大字小国小坂町 特定非営利活動法人 まんまる 施設長 本間 義信	石山久美子	1	8	不採択
社会福祉事業を営む特定非営利活動法人に対する土地、建物等の固定資産税の減免を求める請願	小国町大字小国小坂町 特定非営利活動法人 まんまる 施設長 本間 義信	石山久美子	1	8	不採択
「日常生活自立支援事業」利用者に対して小国町からの支援を求める請願書	小国町大字小国小坂町 特定非営利活動法人 まんまる 施設長 本間 義信	石山久美子	9	0	採択

趣旨採択とは？

請願に対する議会の意思決定は、理論的には「採択」か「不採択」の2種類しかありませんが、請願の願意については妥当であり十分に理解できるが実現性の面で確信が持てないといった場合に、不採択とすることもできないとして採られる請願に対する決定の方法を「趣旨採択」といいます。



人工透析患者送迎事業について

いしやまくみこ 議員
石山久美子

透析患者送迎の 具体的な事業内容は

石山 平成28年10月25日臨時議会で小国町立病院での人工透析治療事業が中止となり、重要決定事業にも関わらず、十分な検証もなされず、当局の判断は一方的だ。

このことは、透析治療を受けておられる方に生じる希望を根こそぎ奪ってしまう事態となった。

仁科町長は町立病院での透析治療にかわる、透析患者送迎の事業を開始したが、その内容を伺う。

町長 送迎を希望される方は16名、患者は週2回から3回の通院が必要である。医療機関ごと、治療時間帯に応じて、時間的な口スがないように運行表を作成した。送迎は乗り合わせとなるが月・水・金曜日は3便、火・木・土曜日については4便を運行し、5か所の病

院への送迎を行う。このため、8人乗りワゴン車3台、車いす対応車両1台を配備し運転業務を小国タクシーに委託した。また、患者の乗降時の介助や緊急事態等に対応するため、送迎補助員を1名同乗させる。補助員は町で直接雇用し、代替要員を含め9名を雇用した。

石山 委託先の小国タクシーとは1社だけの随意契約か、透析治療患者を送迎された実績はあるのか、運転者や補助員は専門知識があるのか。

健康福祉課長 随意契約である。専門知識等は特に無く、確認はしていない。目的は透析患者の通院にかかる負担の軽減を図ることである。

透析患者送迎の 事業費用は

石山 10月臨時会で透

析患者送迎費用として、補正予算5百7万8千円を計上したが、平成28年度末までの事業が予算内で実施できるのか、全体の事業費について伺う。

町長 送迎事業では当初9名での希望者を予定していたが、最終希望者16名での体制となった。運行事業の総経費は約8百万円と見込んでいる。

石山 委託料・車両リース料・補助員賃金の積算根拠は。

健康福祉課長 226万円
の委託料はスクールバスの賃金を参考にした。車両リース料4台で84万円、送迎補助員89万7千円は時間数×単価で積算した。

不足分は、これまで支給してきた月2万円の通院費助成事業費用をあてる。

患者送迎の 安全性について

石山 安全に透析患者の送迎を行うことが大前提である。緊急事態での対応について伺う。

町長 送迎中に患者の体調不良など緊急事態が起こった場合、送迎補助員は通院先の医療機関への連絡、医療機関の指示のもとに緊急車両の要請などの連絡調整を行う。

さらに、患者の緊急連絡先と健康福祉課に連絡するとしている。また、関係する医療機関や西置賜行政組合消防本部小国分署を通じ管内で情報共有をしている。

送迎車には連絡用の携帯電話の配備、緊急時の対応マニュアル、緊急連絡一覧表を備えている。日曜日、祝日、年末年始等の緊急時にも連絡体制を確保している。



石山 12月5日(月)からの送迎は雪や吹雪、道路凍結など、非常に厳しい条件での運行になる。十分に承知のことと思うが、透析治療をされている方は「透析治療」が命をつなぐただ一つの手段である。週2回、3回と通院しなければ生きてはいけない。その精神的な不安と体力への負担を考えると人を運ぶのではなく、命を運ぶことと考えていただきたい。患者に安心安全な治療を届けるために、思いの通った事業となるよう配慮してほしい。

魅力ある道の駅づくりに期待する



今 康成 議員

県は「道の駅」整備を『やまがた創生』と結び付けている

今 山形県では「やまがた道の駅ビジョン2020」を掲げ、東京オリンピックが開催される2020年代初頭までに現在の18駅から30駅程度に増やし、観光振興、地域の産業振興等による『やまがた創生』に資する、としているが。

町長 「道の駅」については所信表明で述べたとおり、観光の街づくりを推進していくうえで、魅力発信基地であり、町の顔といえるべき存在であると位置づけ、たくさんの方が楽しめるパーク化に向けて、活性化策を図る。

今 「道の駅活性化調査会議」設置の進捗状況はどうなっているか。

町長 今年9月に庁内関係各部署の室長及び主査

級職員で会議を構成し、道の駅の現状と課題の整理、あり方を踏まえた整備の方向性と進め方等について検討を重ねている。今後、課長会議等において事業化の可能性を加えながら、着実に具体化するために、必要な経費を29年度予算に積算するよう指示している。

「道の駅」現状への評価

今 県のビジョンの基本的考え方では、目指すべき将来像を挙げていますが、現状に対する評価を伺う。

町長 昭和63年度からの整備で、老朽化や利用者動線の不具合等、解決すべき課題が山積している認識している。

隣接するスキー場があり、管理棟を更新し、スノーボード選手を育成する環境整備に取り組んでいる。

今後は、「重点道の駅」

との連携を強化し、来訪者の拡大を図る。

町民から親しまれる空間づくりを目指し、道の駅一帯をパーク化する」としている。

地域ブランド化の推進や6次産業化のアンテナ基地として、魅力づくりにむけた管理運営の取組みを期待する。

これまでの機能に磨きをかけるともに、町民の皆さんや利用者の声に耳を傾けていく。

衛生面での整備を急げ

今 道の駅の基礎機能の向上を図るうえで、衛生面の取組みとして多目的トイレの設置を急ぐ必要があると考えるが。

産業振興課長 県でも既存の道の駅整備に対する補助事業がある。今年度は間に合わなかったが、来年度に向け担当者が県に出向き情報提供を受けている。

担当課として早急に取り組むべきと考えている。

やまがた道の駅ビジョン 基本的な考え方

- 1 「やまがた」らしい基本機能を有する「道の駅」
- 2 各々が独自性を持つ「道の駅」
- 3 互いに連携する「道の駅」
- 4 誰もが行きやすい「道の駅」
- 5 誰もが参加できる「道の駅」



新たな役割が求められる期待される



こ せき かず よし
小 関 和 好 議員

今後の商業支援と アスモの役割について

**仁科町長の商業
に対する考え方
支援策は**

小関 人口減少に伴い、周辺部の商店は閉店し消費力が低下している。逆に中心部は、量販店が3店舗も増え中央商店街は、後継者問題も抱え閉店撤退を余儀なくされている。

仁科町長は、今後の地元商業のあり方にどのような考えを持っているか。小国町の商業の拠点であるアスモの今後の役割についても聞きたい。

**「誰もが利便性を
享受できる街区」
の実現に努める**

町長 商業活動は、人口とその購買力を基本としているが、町内の人口は減少の一途をたどっており商業を取り巻く環境は大変厳しい状況になっている。

商業については、一義的には自由経済であり、各店舗が市場原理により

競争しサービスの向上に努めていく事が消費者の利益になるといわれているが、過疎地域である本町にあつては、買い物弱者となりうる方が多く、自由経済の良い面だけが現れるものでないと考えている。

そのための支援として、プレミアム商品券の支援や宅配事業の支援などを行い、それを機に独自の魅力づくりを行うことを促進している。また、小規模事業者の販路開拓事業の取り組みも活発化していると聞いている。

こうしたことから、環境の変化を十分に捉えた取り組みの転換を商工団体が展開してきていると認識している。

アスモに関しては、商業施設の核であると共に町中心部における日々の賑いを感じられる場としての二つの側面があると認識している。このため、アスモを取り巻く環境が著しく憂慮すべき状況に

あるという認識から、これまで支援に取り組んできた。

今後も連携を密にしなから「誰もが利便性を享受できる街区」の実現に努める事が町の役割であると考えている。

小関 情報交換の頻度は。

産業振興課長 月1回20日前後に行っている。

小関 その中で商店街、アスモの将来像に関しての話し合いは無いのか。

産業振興課長 まずは賑わいづくりという事でギャラリーや特産物の展示等を行っている。

小関 プレミアム商品券は、一時的な事で問題の解決にはなっていない。将来像に向けて中長期的な支援が必要ではないか。

町長 将来的には、観光を絡めて町外から客を呼

べるような商店街にしていきたい。そのためには、町外から町内に来ていただけの導線の構築を道の駅を絡めて構築していきたい。また、特産物の商品化に関しても急ぎ支援をしていく。

小関 観光だけで一つの課を作る自治体が増えている。大課制の産業振興課では、観光の発展は難しいと考える。農業・林業と商業・観光は、分け

て考えるべきと思うが町長の考えは。

町長 長い歴史の中での大課制となっていると考える。各課の仕事の内容や、環境の変化を考慮して今後考えていきたい。

小関 事業者の現状は、資金繰りや後継者問題で大変である。今以上に情報交換を密にして手遅れにならないように支援をしていただく事を望む。



小国町商店街

「幼保連携型認定こども園」 認定による幼小連携強化を 小国高校存続に向けた支援の方向性について



ま みや ひさ え
間宮尚江議員

子供に最善の利益を保障する効果として「認定こども園」への移行は必須

間宮 福祉と教育は分断されるのではなく一体化されてこそ本町での英語ふれあい事業も効果あるものと思われる。今後の認定を如何お考えか。

町長 資格を有する職員確保を考慮すると保育所に幼稚園機能を合わせ持つ「保育所型認定こども園」が望ましい。民間保育園との情報交換を行いながら検討していきたい。保・小・中・高連携の調査会議において必要性、実施時期についても検討していく。

間宮 「保育所型認定こども園」にする、子ども達への利益は何か。

健康福祉課長 利益というよりも、現状では幼児教育連携を考えた時、幼児教育免許取得者の確保が課

題。保育所機能のままでは幼児教育機能を併せ持つ「保育所型認定こども園」が望ましい。

間宮 飯豊町、白鷹町では幼児認定が一ヶ所ずつ、米沢市では今年数件が幼児連携に移行している。なぜ本町でできないか。

幼児教育免許、保育士免許、どちらか片方しか所持していない者に対しては、昨年から5年のスパンで8単位ずつ取得すれば免許取得となる施策が、国からも示されている。大人の都合ではなく、年齢差別されることなく、直ちに行うべきではないか。小国の子ども達にどのような育ってほしいのか。

教育長 幼・小・中・高一貫性のある「学びと生き方」に連続性と系統性のある教育を目指したい。

間宮 5年後では遅い、子ども達には時間が無い、先送りにすれば社会全体

の社会収益率の低下にもなる。教育のみならず、社会性人格形成という点での幼児教育は重要である。これから生まれてくる次世代への権利と保障を考えてほしい。

また、特別支援を要する児童の現状は通級の支援を行うなどしているのか。

教育振興課長 数年、人数的には横這いである。保育園とのスクーリング等を行っている。

間宮 福祉課と分断されるものではなく、教育委員会で幼・小・中・高・大接続を視野に入れた「教育課」とも考えられる、専門的戦略チームを設置して頂きたい。大人都合ではなく、全ての子ども達への利益を保障するものとして幼児認定こども園への移行を早急に望む。

間宮 小国高校での海外修学旅行・短期留学は多大な効果を上げていると認識している。今後の国

際情報教育としての町の支援は。

町長 移住推進も含めて従来の支援のみならず、小国高校の更なる魅力と特色ある環境づくりに官民一体となり支援していく。

教育長 海外への派遣事業は町内外に小国高校の魅力を発信する事業であり、継続した支援の必要性は強く感じている。

間宮 短期留学を小中学生にも行っているかどうか、情報教育からも高校生の派遣事業から国際交流に目をむけてはどうか。

教育長 語学のみならず国際交流は早いほどいい。小中短期留学においては安全性の面も視野に入れ検討していきたい。

間宮 数十年前には、インドネシアやウルグアイからの子ども達を本町に招いての国際交流事業も

あった。小国高校生の英語力を活かせるいい機会ではないか。

町長 海外との柔道を通じたスポーツ交流を考えている。

間宮 移住推進、国際交流には居を必要とするはずだが、空き家対策連絡協議会等では、その点も協議されているのか。

町民税務課長 今年度、空き家の調査を行っている最中であり、利活用という点では検討していく。

間宮 小中高一貫教育における「二十一世紀型」教育を推進していく上では、教育デザインを描いてほしい。やはり戦略チームが必要ではないのか。更に、小国の子ども達を知っている、小国の教育を知っているという人材育成にも力を入れて、小国高校を始め校種を問わず配置していくべき支援も重要であると望む。



山の暮らし伝承創造機構やアスモ運営について

こばやし 嘉 議員

山の暮らし伝承創造機構とは

小林 「山の暮らし創造機構」創設とその事業内容について聞きたい。

まちづくりのソフト・インフラとして示す

町長 地域創生総合戦略では「機構の取り組みを通じ、地域の誇りと魅力を再興し、協働、交流、連携の地域づくりを推進する」と戦略的コンセプトに位置づけ、現時点では機構の創設を目指し調査の段階で、先進的な事例研究、有識者の指導・助言をもらっている。

また、次期総合センター整備構想策定で、ソフト事業のコア機関の役割を検討をしている。

今後は、機構を支える人財確保や育成、各種地域づくり事業との連携、機構創設に向けた工程表の作成に取り組む。

まちづくりは「小さな拠点づくり」を核に進めよ

小林 次期総合センターは、少子高齢化が進む中、中央集中型の「開発総合センター方式」を改め、地域コミュニティから発信する「小さな拠点づくり」の考え方を進め、「地域おこしコーディネーター」や「職員の地域担当制」の配置検討を提言する。

戦略プロジェクトは

小林 総合戦略の三つの重点戦略プロジェクトの内容、成果について聞きたい。

横断的、集中して展開

町長 特定のプロジェクトを推進するというよりも、テーマ実現を目指した重点施策のグループと認識してほしい。

成果の把握は重要業績評価指標を定め、それを

基に検証を図る。

外部有識者を含む「戦略推進懇談会」を設置し、庁内組織の「戦略推進本部」で随時施策の推進状況を確認していく。

ショッピングセンター「アスモ」の運営は

小林 テナントの相次ぐ撤退で厳しい経営状況と聞くが、今後、町はどのように対応していくのか聞きたい。

構造的な

問題がある

町長 アスモは、人口減少などの環境変化に加え消費の町外流出が続き、町内の中小事業者は大変厳しい状況にあると認識している。

平成19年度から、いきいき街づくり公社に対し、この10年間で約3億2千万円の支援を行い、魅力ある環境づくりを支援してきた。

商業組合が管理する商業スペースのテナント料

などの負担が大きく、事業維持や新規参入が難しい構造的な問題になっていると理解している。

建設資金の

償還残は

小林 平成14年当時の山形新聞に、建設費約24億円、このうち、協同組合6億9千万円、公社3億6千万円を、それぞれ国から融資を受けており、来年から償還がスタートする。

協同組合は、各店舗から面積に応じて支払われ

るテナント料を償還金に充て、公社は、協同組合が負担する利用客用の駐車料金で償還する予定だと報じている。

町が出資している公社の借入金残高を聞きたい。

公社分は

約1億6千万円

町長 平成28年3月31日現在、約1億6千万円の償還残高となっている。

(他の質問)

人工透析患者の支援策



厳しい経営が続くアスモ

議会報告会

特集

よりよい まちづくりのために

会場での質疑応答

質疑 3月議会で賛成多数だった件が、10月臨時会で反対の結果になった理由は。

応答 10月臨時会の際に提出された「人工透析実施の是非に関する検証報告」の中身の精査を議員個人がしたうえで、採決を行った結果であった。

質疑 町立病院の赤字が4億円にもなっている。議会はどのような対応をしてきたのか。

応答 損失額のことには議会としても危惧している。

小国病院では第2次病院改革プランを平成26年から実行している。

質疑 町内に就職する場所が無い。いくら町の魅力を語っても、雪も多い中、就職口がなければ人は来ない。

応答 町内の主要企業での募集は多い状況だ。しかし町内への就職希望者が少ないようだ。「小国高校を支援する会」が立ち上がったので、その活動に期待したい。

平成28年11月30日、小国総合開発センターにて議会報告会を開催しました。当日は52名の方にお越しいただき、議会活動に対するご意見や町政一般に対する要望などの発言をいただきました。

報告事項	開催日時	開催場所	出席議員
◆ 平成28年度予算審査	平成28年11月30日(水)	小国開発総合センター集会室	米野 貞雄 伊藤 重廣
◆ 平成27年度決算審査	午後6時	議会活性化調査特別委員会	安部 春美 小林 重廣
◆ 臨時議会審議			遠藤 和彦 小関 和嘉
◆ 置賜広域行政事務組合			石山久美子 間宮 尚江
◆ 西置賜行政組合			今 康成

会場からいろいろな意見をいただきました。 一部を紹介します。

○交流人口を増やす事が大事だと思う。
小国町の観光のプランは、お粗末だ。
官民で自然を利用した宿泊体験を増やせないか。



○議会からの報告の中に、地域の力を活用した新しい仕事づくりの提案などを期待したい。

○決議された結果は重いものだ。決まった事はどんなことがあってもやってもらいたい。

○統合された小学校区の活力は失せてきている。活性化の方向性が見えない。
スポーツ振興にもっと力を入れて子供たちの心身の健康を図って、町の元気につなげてほしい。

○町や議会の広報誌などを利用した町民のディスカッションの場を作れるといい。



● 議会から ●

町民に開かれた議会であり、町民と共に歩む議会であるために、この度、議会報告会を開催しました。

今回は、会場一ヶ所に全町民を対象に参加者を募りましたが、町内の各地区に赴き意見交換をするのが本来の姿だと考えています。

今後も、より良い町づくりのために町民皆さんから意見や要望を受け、行政に対し提言を行える活動に努めたいと考えていますので、ご理解とご協力をお願い致します。

文教産建常任委員会行政視察

委員長 遠藤 和彦

副委員長 今 康成

委員 高野 健人・小林 嘉・石山 久美子

●研修テーマ

「雪冷熱エネルギー活用による農業振興と特産品開発の取り組みについて」



農産物集出荷予冷貯蔵施設（氷室）

岩手県花巻農業協同組合西和賀地域営農センター内に、平成元年度に貯蔵庫、貯雪庫として完成した。

貯雪量 200トン

視察を終えて

農業での雪室利用は、環境面からも利に適っている。野菜や花きの生産拡大に向けては、その再考の必要性を感じた。

雪室施設の利用には、特産品の貯蔵、季節調整出荷等が考えられるが、建設投資額に対する効果がどの程度見込まれるのかが課題となる。



「西わらび」特産化・商品開発に向けた取り組み

平成13年から町を挙げて山菜栽培振興に取り組み、大幅に生産者が拡大した。平成20年度に「西和賀わらび生産販売ネットワーク」を設立。現在ではブランド商品「西わらび」が確立されている。

視察を終えて

コメの生産調整で、減反による土地利用の先細りを見込んだ取り組みである。ネットワークを構築し、わらびの商品化がわらびを主人公にしている。小国町での商品化とは視点が違う。観光わらび園運営者等との意見交換の必要性を感じた。

●研修テーマ「学校給食センター及び食肉加工センターの取り組み」



東成瀬村学校給食センターは、平成6年から一括調理し小中学校へ運搬している。

小中児童生徒数は175人。給食費は村の助成により無料。食肉加工センターは給食センターと併設。平成23年に赤べこ（短角牛）再生事業を開始し、六次産業化を村政の柱に過疎債特別枠を活用した。

視察を終えて

給食センターの取り組みは、厳しい自然環境下で地元の食材をできる限り活用する思いとして小国町の地産地消の取り組みと重なる。

自治体で食肉加工工場を運営しているのは注目される。既存事業の見直しを積極的に行う等、一点に集中した施策予算作成で効果を実現する必要性を強く感じた。

行政視察報告

岩手県と秋田県での 研修を実施

期日:平成28年10月20日(木)~21日(金)

視察先 ① 岩手県和賀郡西和賀町

総面積 590.78km²の8割が山林原野。
人口6,091人(2,360世帯、高齢化率45%)

視察先 ② 秋田県雄勝郡東成瀬村

総面積 203.69km²の内、山林原野は93%。
人口2,632人(864世帯、高齢化率35.2%)

総務厚生常任委員会行政視察

委員長 伊藤 重廣

副委員長 小関 和好

委員 米野 貞雄・安部 春美・間宮 尚江

●研修テーマ「自治体病院の運営及び病児保育事業の取り組みについて」



町立西和賀さわうち病院は透析用ベット数8床、町内の透析患者約20名のうち18~19名の治療を行っている。病児保育事業では施設建物は町が無償提供し、運営は医療法人に委託している。

定員は1日3人、看護師1名、保育士1名が従事している。町は保育料の補助を実施している。

視察を終えて

「自治体病院の運営」

町立西和賀さわうち病院でも医師・看護師の確保は小国町と同様に重要な課題であった。社会福祉士等の活用による看護師の負担軽減に向けた検討が必要と感じた。

「病児保育事業」

利用者負担金の助成や手厚い支援体制が整えられていた。

小国町では病児・病後児保育への需要調査を含め、検討していく必要性を感じた。

●研修テーマ「防災情報センターの取り組みと防災行政無線の活用」



防災情報センターは防災所管課を1階に配置し、役場分庁舎的役割と広域消防署分署を合築している。

災害の際には、対策本部としての機能を有し、被災住民の避難所としても利用する。

現在、防災情報センターと町内4ヶ所の倉庫に分散して防災用品等の備蓄を行なっている。また、センター内には防災無線の基幹設備を配備して、村内に中継局1台、子局19台を整備し、各戸には戸別受信機も配備している。

視察を終えて

通常時は、行政情報等を伝達する手段として各課に広く利用されており、小国町においても町民福祉増進のため、そのような活用が図られることを強く期待する。

おらも おぐに町民

町の人から
ちょっとひとこと



プロフィール

氏名 今 正敏氏
年齢 84歳
住所 小国小坂町

Q 文化財保存のきっかけは、どのような経緯だったのですか？

ある方から、大切に保管、管理してもらえぬなら譲り受けてほしいと言われたのが、きっかけです。

Q 保存するにあたり、注意した点は、どんなことで

すか？

特に、扇子には金粉が施されており、広げたりする際に剥がれ落ちてしまうので米沢市の専門店にて額縁に入れてもらいました。

日光は勿論ですが、電気も含めた明かりを当てないように、自宅でも気をつけています。

Q 文化財を今後、どのように次世代へと継承していただいたいとお考えですか？

子ども達が、興味があるか無いかは勿論だが、町内の歴史を学ぶことも大切ではないでしょうか。

古文書は地域の歴史を深く知るための手掛かりになる貴重な資料です。後継者は、歴史を学びその価値を理解していけるような姿勢を大切にしてほしいと思っています。

Q 指定文化財「水芭蕉」の保存活動にも、以前は取り組んでいらっしゃいましたが、現在はどのような状況ですか？

実は今年、数年ぶりで現地の草刈りと木の伐採をし

ました。以前は県内一の面積と言われ大型観光バス等も来ていましたが、当時の面積と比べて半分は消滅している状態です。文化財として指定されていることも知っている人も少なくなってきたと思います。遊歩道の整備も含め、春先の観光に繋げていってほしいですね。

Q 最後に、町内に数多く残る文化財に寄せる思いをお聞かせ下さい。

文化財指定されているものを、町では今後どのような考えで保存していくのが重要なことであると認識してほしいですね。資料館の整備等も必要ではないでしょうか。

特に上杉家に縁のあるものに関しては、米沢市の博物館の方々も展示会等ではお借りしたいと、訪ねて来てくれた事もあります。

町内の文化財調査等、深く長期で研究して下さる人材支援も重要になってきているし、知らないうちに紛失、消滅していくことは避けたいですね。



次は3月定例会です。傍聴にもう一度ください。

議会に対してのご質問、ご意見をお寄せください。

議会事務局 (62) 2448

編集後記

11月に開催した議会報告会ですが、最近では多くの地方議会で行われています。今回、小国町民の関心がどれ程であったかは計れませんが、浸透するまで時間はかかりそうです。

報告会と銘打ってはいませんが、住民側からの意見を聞く場としての側面を重要視していたためか、議会側の報告内容に対しては期待外れだった、という意見もありました。振り返ることで、次回道筋へのヒントを探してみます。

今(記)

発行責任者

議長 高野 健人
議会広報特別委員会

委員長 小関 和好
副委員長 今 康成
委員 石山久美子
間宮 尚江